

◎保健福祉学部

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

1 教育理念・目的

保健福祉学部では、少子高齢化が急速に進み、保健や医療、福祉を取り巻く環境が大きく変化している時代に、次のような人材を育て社会のニーズに応えることを目的としています。

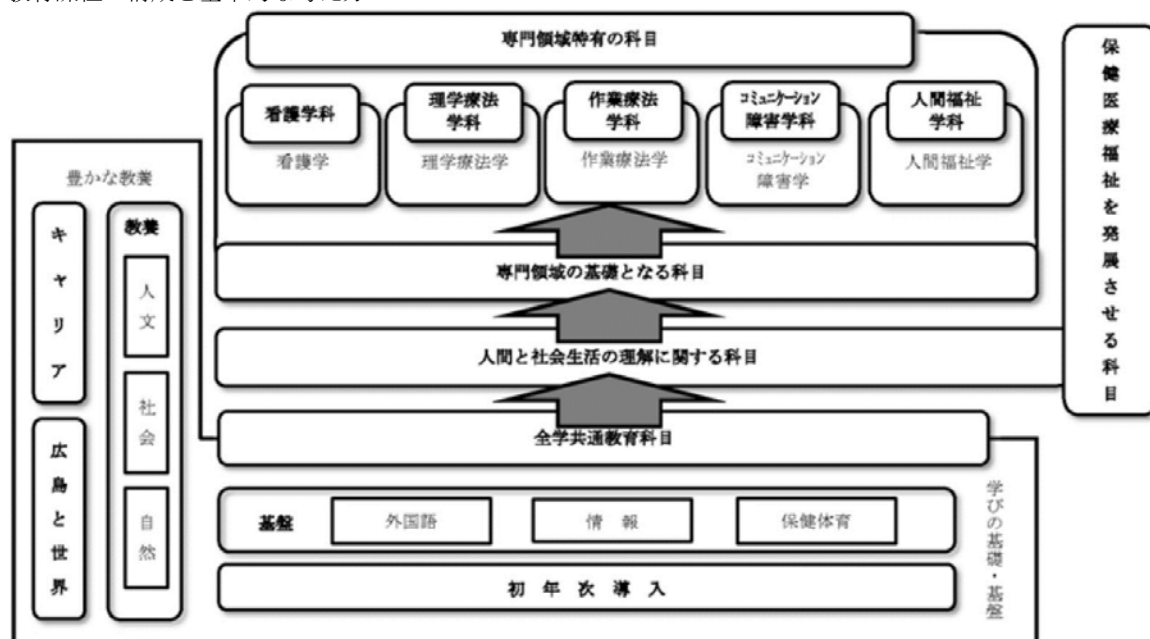
- 1 高度な専門知識を有し、保健・医療・福祉に貢献する人間性豊かな人材
- 2 保健・医療・福祉の総合的実践力を有し、チームアプローチを実践できる人材
- 3 保健・医療・福祉の領域において総合的に教育・研究する基礎的能力を備えた人材

そのため、5学科の連携教育により、専門的な知識や技術のみならず、チームアプローチや地域包括ケアシステムを支えることのできる総合的な実践能力を養う教育を行います。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

1 専門教育課程の構成方針

(1) 教育課程の構成と基本的な考え方



保健福祉学部の教育課程は、①全学共通教育科目、②人間と社会生活の理解に関する科目、③保健医療福祉を発展させる科目、④専門領域の基礎となる科目、⑤専門領域特有の科目、の5つの科目群で編成されています。

- (2) 保健医療福祉を発展させる科目では、保健・医療・福祉の仕組みやあり方を学び、5学科共同による演習を通して、社会の中での役割を認識し、保健・医療・福祉の連携を図ることができる資質を養います。
- (3) 実習科目では、実践現場における的確な判断力、主体性、創造性などを養います。保健福祉学部附属診療センターなどの活用により、段階的な実習を取り入れるとともに教育と実践との密接な連携を図ります。
- (4) 卒業研究は全学科必修科目としています。

2 専門教育課程の特色

- (1) 5学科共通の総合演習科目により、役割認識とチームアプローチの修得を目指します。
- (2) 臨床・実践教育に重点を置き、地域・社会での活動を可能とする科目を配置しています。
- (3) 小グループ教育を推進し、自主性と創造性を培います。
- (4) 科学的思考や国際感覚を育むための科目を設定しています。

3 学修成果の評価

学修成果の評価については、適正な学修時間を確保したうえで、コースカタログ・シラバスに配点割合を示した多面的な評価基準により厳正に行います。具体的には、学期中や学期末に行う筆記試験・レポート・実技試験等のほか、授業への能動的な参加度や貢献度を観察したりするなどの方法を用い、総合的に評価します。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

県立広島大学のアドミッション・ポリシーのもと、保健福祉学部には、保健・医療・福祉の対象となる人々に専門的立場からチームワークを通して寄与することができる人材の育成が求められています。

保健福祉学部は、高校で学ぶ基本的知識を身につけ、人に対して関心があり生命に対する倫理観を持った、入学後も生涯にわたり学び続けることができる意欲がある、柔軟性と協調性を有する学生を求めます。

◎理学療法学科

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

1 学修成果

- (1) 【知識・技能】
 - ・高度化及び複雑化する保健医療福祉分野に対応できる理学療法学の内容及び方法を身につけます。
 - ・理学療法士として必要な技術である運動療法、物理療法そして日常生活指導について実施することができます。
 - ・地域社会や国際社会に貢献するために必要な知識を有し、医療専門職としての幅広い教養と倫理観を身につけます。
- (2) 【思考力・判断力・表現力】
 - ・多様な価値観を受け入れた上で、理学療法学を活用してさまざまな側面から論理的に思考し、客観的な判断が下せる能力を身につけます。
 - ・理学療法士として建設的な議論ができ、自分の考えを適切に表現する能力を身につけます。
- (3) 【主体性・協働性】
 - ・理学療法学をはじめとした医療及びリハビリテーション領域の情報に関心を持ち、地域社会や国際社会へ貢献するために生涯にわたり学修する方法を身につけます。
 - ・チームの中における理学療法士としての役割と責任が理解でき、自分の役割に責任を持って行動することができます。
 - ・理学療法学の専門家としてリーダーシップを発揮できます。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

1 専門教育科目の構成

- (1) 理学療法士養成に必要な授業科目を必修科目とし、1年次から4年次まで系統立てて学ぶための構成（階層性）となっています。
- (2) 2年次に理学療法学の根幹となる基礎・評価・診断系理学療法学が多く科目配置されており、理学療法の評価や治療を実践するための基礎を学びます。
- (3) 3年次に流行や教員の研究分野にとらわれることなく、障害・治療系・地域・生活系理学療法学が配置されており、臨床実習及び国家試験の合格、そして卒業時に理学療法の実践ができることを目的とした科目が配置されています。
- (4) 充実した総合臨床実習（4年次）を行うための履修制限を設けています。
- (5) 特論科目では臨床ニーズを見据えた柔軟性のある授業内容としています。

2 専門教育科目の特色

- (1) 理学療法の高度な専門知識と技術の修得はもとより、豊かな人間性と教養を持ち、チームの中での自分の役割と責任を十分に果たせる理学療法士の育成を目標とした科目配置になっています。
- (2) 理学療法士国家資格を得るためのカリキュラムであることが前提です。
- (3) 教員の研究活動並びに上級生の卒業研究、下級生の講義に参加することで科学的思考や探求心を育成しています。

3 ディプロマ・ポリシーとの関係

学修成果である【知識・技能】【思考・判断・表現】【主体性・協働性】に対応したカリキュラム配置としており、また客観的臨床能力試験の実施が学修成果の担保として重要な役割を担っています。

理学療法学科専門領域特有の科目とディプロマ・ポリシーの学修成果との関連は下図に示すとおりです。

理学療法学科専門領域特有の科目とディプロマ・ポリシーの学習成果との関連

	知識・技能	思考・判断・表現	主体性・協働性
基礎・研究系理学療法学	◎	○	◎
評価・診断系理学療法学	◎	◎	○
障害・治療系理学療法学	◎	◎	◎
地域・生活系理学療法学	◎	○	◎
応用・実践系理学療法学	◎	◎	◎
臨床実習	◎	◎	◎
卒業研究	◎	◎	◎

◎：十分養成できる ○：養成できる

4 学修環境

- (1) 理学療法への興味を育てるため、初年次より理学療法関連科目を配置しています。理学療法関連科目の講義・演習において上級学年と共に学修することにより、初年次から学修意欲を高める環境を提供します。
- (2) 多様な意見を取り入れ自分自身の理解を深めるために、グループ学修の機会を提供します。
- (3) 理学療法士の専門領域に対応して授業ができる教員を配置しています。
 - ア 臨床での問題を想定した模擬患者演習や、国内論文だけでなく英語論文を使用した専門科目を配置しており、複数の教員で担当しています。
 - イ 理学療法の最新のトピックスを提供するために、臨床で活躍している理学療法士を外部講師として招聘しています。
- (4) 医療専門職であることを意識した実践教育
 - ア 教員による一般講演や研究調査に対して、ゼミの隔たりなく3・4年次生を中心に参加する機会を多く設けています。
 - イ 附属診療センターを使用し演習授業を実施しています。
 - ウ 模擬患者による演習授業を実施しています。
 - エ 臨床実習での経験について情報共有できる講義を開講し、初年次から理学療法士としての臨床像が想像できる環境を提供します。
- (5) 臨床実習施設や卒業生就職施設、理学療法士の職能団体などの外部組織とのコンタクトを重視しています。
 - ア 実習地訪問や研究活動を通じて就職情報を確保しています。
 - イ 同窓会組織との連携を行っています。
 - ウ 理学療法士の職能団体とも連携を図っています。
- (6) 各学年チューター2名による教育・就職支援体制をとっています。
 - ア 理学療法士教員の1名以上の配置により、臨床実習など学外実習における諸問題に対する迅速な対応を行っています。
 - イ 学年持ち上がり制による学生の個性に合わせた対応を行っています。
 - ウ 週1回の学科会議での学生動向報告より、学生情報を全教員が共有しています。
- (7) 理学療法士国家試験合格への積極的サポートとして下記内容で教員が支援しています。
 - ア 国家試験出題範囲と出題予測について常に情報収集をしています。
 - イ 国家試験対策に関する特別講義を開講しています。
 - ウ 複数回の模擬試験を実施しています。

5 学修成果の評価

学士課程全体のカリキュラムポリシーに準じて、能動的な学修を促す手法を積極的に導入し、適正な学修時間を確保した上で学修成果の評価を行います。具体的には、コースカタログ・シラバスに配点割合を明示し、学期中や学期末に行うレポート・筆記試験・実技試験等を行い、一定の基準を満たした学生に対して単位を認定します。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

1 基本理念

医療・保健・福祉分野の対象者が持つ多種多様な問題に対して医療専門職としての誇りを持って、先端医療施設における最新治療から地域包括ケアシステムにおける予防医学・健康増進をマネジメントし、生活指導まで実践できる理学療法士を育成します。

2 人材育成目標

- (1) 理学療法の専門知識と技術の修得はもとより、医療専門職としての豊かな人間性と教養を持った理学療法士
- (2) 医療専門職としての役割と責任を理解し、チームの中で役割をマネジメントし、自分の役割に責任を持って行動できる理学療法士
- (3) 科学的思考力や探求心を持ち理学療法分野において研究活動もできる理学療法士
- (4) 多様な価値観を受け入れ、全ての対象者に適切な理学療法を提供できる理学療法士
- (5) 地域社会や国際社会に貢献するために生涯にわたり学修する理学療法士

3 求める学生像

- (1) 豊かな人間性を持ち、多様な価値観を受け入れ相互理解に努め、自己表現ができる人
- (2) 主体性と協働性を兼ね備え、チームで活動できる人
- (3) 自ら学ぼうという学修意欲を持つ人
- (4) 諸問題に臨機応変に対応できる基礎学力、理解力を持ち自ら判断し行動できる人
- (5) 保健医療福祉関係の仕事に対する強い意志を持つ人

4 入学者選抜の基本方針

- (1) 【知識・技能】
 - ・入学後の修学に必要な基礎的な学力を備えているかどうかを重視します。
- (2) 【思考力・判断力・表現力】
 - ・さまざまな側面から論理的に思考し、多様な価値観を受け入れた上で客観的な判断を下せる能力を備えていることを求めます。

・建設的な議論ができ、自分の考えを適切に表現する能力を備えていることを求めます。

(3)【主体性・協働性】

- ・医療及びリハビリテーション領域の情報に関心を持ち、それらの情報を理解しようと努力する態度を持っていることを求めます。
- ・チームで活動するために主体性と協働性を兼ね備えていることを求めます。
- ・理学療法学について生涯にわたり学修する意欲があり、地域社会や国際社会への貢献を目指す人を求めます。

【一般選抜（前期・後期）】

広範囲にわたる基礎学力の修得度を評価するための大学入試センターと本学で学ぶ目的と意欲を評価するための面接により選抜にします。

この選抜では、とくに基本方針（1）（2）（3）を重視します。

【推薦入試】

小論文では、課題に対する読解力、洞察力、論理的思考力、文章表現力などの基礎学力を総合的に判断し、点数化して評価します。面接では、本学で学ぶ目的と意欲を評価します。

この選抜では、とくに基本方針（2）（3）を重視します。

【社会人特別選抜】

小論文では、課題に対する読解力、洞察力、論理的思考力、文章表現力などの基礎学力を総合的に判断し、点数化して評価します。面接では、本学で学ぶ目的と意欲を評価します。

この選抜では、とくに基本方針（1）（2）（3）を重視します。